

# 特集！100号記念対談 「凜々」誕生秘話



ケアホーム「おひさま」リビングにて

# 桐鈴凜々

祝第100号

平成27年3月15日発行

発行責任者

社会福祉法人 桐鈴会

理事長 黒岩秩子

南魚沼市浦佐 5142-1

電話 025-780-4118

FAX 025-777-3731

e-mail

[info@toureikai.com](mailto:info@toureikai.com)

<http://www.toureikai.com/>

## 桐鈴会の理念

- ・終のすみかを目指す
- ・「迷惑をかけ合える関係」を目指す
- ・高年齢者、しょうがいしゃ、子どもたちが安心して住める地域を創ろう



今回は、「桐鈴凜々」（以下凜々）100号を記念して、創刊に携わった方々に当時の様子を語って頂きました。出席者は、関正太郎さん、森山里子さん、井口美賀さんの3名です。

**関正太郎さん**は、当時「正太郎新聞」の発行者で、桐鈴会発足からはしばらく理事をしていただきました。凜々の創刊者で初代編集長です。現在は専業農家です。

**森山里子さん**は、鈴懸創設当時の事務局長であり初代施設長です。「おひさま」と「ひまわり」の現管理者です。

**井口美賀さん**は、障がい者施設を作りたいと、桐鈴会以前からずっと関わってきました。凜々の現編集長です。

進行は現施設長の鈴木智子です。

## はじまりの原点

関：第1号はいつだったかなあ。  
森山：最初は、平成（以下元号省略）10年の8月、つぎ11月、12月。2ヶ月くらいのテンポで、決まった時期はなかったんだな。「あ、出さなくちゃ」って、そういう感じで。竣工式だからとか、こういう状況だからとか。

鈴木：「桐鈴凜々」の名前の由来は？

関：入居者が隣同士の人間になって、なんだかんだ言っても、隣近所、大事だなあと考えて、となりの「隣（りん）」という意味で何がいいかなと思つてたら、「凜とした」の「凜」もいいなってことで、今の勇気凜々の「凜」になつたんだなあ。

鈴木…関さん、この時第1号に何を載せようと思いましたが？

関…常に「紙」の役割とは何かっていう原点に立ち返らないとダメで、まず、これから、つくりようとしてる人たちの意思の疎通。地域の人達との意思の疎通。行政との意思の疎通。そういうことがなければだめだというので始めた。



関正太郎さん

それがないと、どこまで私的なものになっていくか、身内だけの自己満足みたいなものにあつと言う間になりかねないからね、紙というものそのものが。

鈴木…お話伺っていると、今言ったことは、今の凛々にずいっと引き継がれて、つながっているなあつていう気がし

ますね。何号まで何月に出すというよりも、必要な情報を書こうという感じですよ。ちなみに、第1号の記事は何でしょうか？

森山…初代理事長の久保勝彦さんが、なんでケアハウスを作るのか、どういう思いで作るのか、というのが書いてあるんですね。

鈴木…タイトルが『鈴に敬意を込めて、ヒアリングを迎えるにあたり』大久保勝彦。これが巻頭ですね。つぎが小沼和夫さんの「入札の体験」。

森山…小沼さんは自分の入札の体験を言ってるんだね。鈴懸の入札はこれからだもんね。11年の3月くらいに入札してるから。

鈴木…次にどういった経緯でここまでできたかという活動の記録です。ちなみに大きさはA3版で、縦に長い一枚の形ですね。それで「手段と目的が逆に 戒めたい私たちの今後」。すごい難しい題で、森山里子さんが書いています。

森山…この題は正太郎さんがつ

### 訃報その1

「笠原国三郎さんを偲んで」

—平成27年2月1日永眠—

グループホーム桐の花

管理者 糸山和子



国三郎さん(左)とマスノさん(右)

平成23年8月に入居され、3年半という年月を「桐の花」で、奥さんのマスノさんと共に過ごされました。お散歩が好きで、チョコレートが大好きで、奥さんの姿が見えないと「マスノはどうした？」と気遣う、優しいお父さんでした。昨年秋頃から、お天気の良い日でも外に出ることを好まなくなり、愛用の黒いソファでうたた寝をすることが次第に多くなつて

行きました。それでも頑固さとチヨコレート好きは相変わらずで、体調を崩しても頑として入院を断り、チヨコレート一粒を口にほおばり息を引き取られました。国三郎さんらしい最期でした。享年89歳、心よりご冥福をお祈りいたします。

### お祝い

「百歳の母へ」松本美紀子  
「桐の花」入居者、  
大塚悦子さん(次女)



お母さん百歳おめでとう。  
「百歳まで生きられたらすごいね！」と面会のたびに言っていたのが、昨年本当になりました。

私の母は、現在グループホーム「桐の花」に入居しお世話になっております。昨年の「敬老の日」には市長さんのご訪問があり賞状もいただきました。11月の誕生日には桐の花の皆様からも温かなお祝いをして頂き、私も当日参加してとても嬉しい思いでした。そして母が浦佐に引っ越してきてから、ずっと診て頂いている黒岩先生からの花束のプレゼントはありがたく感激いたしました。

けたんです。

関…何にでも言える。全てのこの原点だよな。手段と目的が逆になるといいうのはダメだよな。

森山…施設を作っちゃうと、施設を維持するために、利用者を増やすことが目的になつてしまう。私なんか知的障がい施設に行つて（六花園に20年間勤務）、結構そう思つた。当時私は、施設というのはいんじやないくらいがいいんじゃないかと思つてた。

鈴木…さつきも関さんの方から何回も「原点に立ち戻る」という言葉が出ましたけど、まさにこれそうですね。

関…やっぱり森山さんはいいことと言つてるし、俺はいいこと残してたなあ（笑）あらためて感心しましたわ。

鈴木…当時、ケアハウスというと、珍しいイメージではありませんか？

森山…そうこの時に、ケアハウスを作ろうと言つては見たものの、果たして入る人がいるのかどうかかわからなくて、

役員が手分けして大和町じゆうの一人暮らしと高齢者世帯、200戸くらいを全戸訪問したんだよ。

関…ケアハウスとしては、ハリだったわけだよな。



森山里子さん

森山…すでに六日町にはケアハウスがあつたけど、入居者が集まらなかつた。

### 「凛々」の変遷



鈴木…A3版、新聞形式で9号まで出たつてことですかね。10号目が今の形にちよつと似てきた感じ。

関…4ページで始めたんだよな。今レイアウトもパソコンの画面でできるけども、この時は切つて貼つてコピーしてたんだ。

森山…写真も貼つて。

縁もゆかりもない浦佐で、88歳を過ぎてひとり暮らしを始めた母にとつて、終の棲家の桐の花で心おだやかに感謝に満ちて毎日を過ごせることが、本当にありがたく幸せなことだと百歳を迎えて改めて感じています。

先日はちよつと入院しましたが、それでも「早く帰りたいよ」と頑張つて退院して来ました。私が自分の親ながらすごいと思うのは、「与えられた寿命を全うしよう」という気力があることです。長い人生の中で大変なことや、苦しいこともたくさんありましたが、気持ちを強く持つてここまで生きてきたのだと思います。

お母さんもうすぐ春ですよ。毎年、桐の花のお庭の桜が咲くのを



(左) 長女 (中) 次女：筆者 (右) 大塚悦子さん

楽しみにして「みつこちゃんにも見せたいね」と言つてくれているので、今年は時期を逃さないように来ますね。それまで元気でいてください。



### 新入職員の挨拶

訪問介護員 大津理枝子



一月より登録ヘルパーとして勤めさせていただく事になり、感謝してまいります。

ヘルパーという仕事は初めてであり、至らぬ事が多いかと思いますが、いろいろ教えていただきましたと思つております。よろしくお願い致します。

\*八色園に20年間勤め、経験豊かで期待大の新人ヘルパーです。今は早番専属として勤めています。温和な人柄、仕事に対するポジティブな姿勢など良い刺激をもらっています。これまで培つた経験から、新しい風を吹き込んでもらえたら、と期待しています。  
(鈴懸おはようヘルプ・上村久美子)

鈴木…データをに入れるんじゃないかね。

関…スキヤナーなんてわからなかったもんな。

鈴木…それを印刷屋さん？

関…いや、コピー。

鈴木…えっ、これコピーなんだ。わりときれいに出てますね。当時コピー代つてのは高くなかったですか？

森山…中古のコピー機を関さんにもらったんだよね。たくさん書類を作らなければならなかったから。



井口美賀さん

井口…そのうちに写真を取り込めるようになったし、森山芳美さん（現編集担当。平成23年から参加）が編集に加わってからとてもきれいになりました。

### 見出しは歴史を語る



鈴木…（第8号の記事を見ながら）11年8月31日でもうすでに満室になったのですか？

森山…建設が始まって、入居申し込み受付を6月から始めて、新聞あちこち載って入る人がみんな決まったんだよ。そして、11年7月25日に建前をやった時は、申し込んだ人をみんな呼んでね。その時はかなりの人が来たんだよね。入居がまだ決まっていなかったのに、星浅兄さん、上村キ又子さん、青木新二郎さん、田辺さん夫妻（いづれも現鈴懸入居者）とかも来たんだよ。

この年はもう、理事会、評議員会、30回もやったんだつた。（笑）

関…そうやって事務局をしながら凛々も作ったんだもんな。

鈴木…多分、凛々発行を理事会とか評議員会にかけると、今はそんなことしてる場合じゃないとか何とかかんとか言われるんだろうけど、勝手にやったつてところが、私すごい

## 青木新門さん講演会



《納棺夫日記》の著者、青木新門さんが、去年我が家を訪ねてこられて、萌気園、桐鈴会の施設をご案内しました。その時ご講演をお願いしたところ、「夢草堂のほえみ観音の前で、話したい」と言ってくださり、2月9日（月）大吹雪の中、6時から萌気会、桐鈴会の職員を対象に講演会（演題「いのちのバトンタッチ」が実現したのでした。その時、青木新門さんからの誘いを受けた魚沼市で庭山医院を営んでおられる庭山昌明さんが来られたので、感想をお願いしたので。会場が狭いために皆さんにお知らせすることができませんでした。当日は、本当に全部の席が埋まって（80人くらい）しまったのでした。

着いたのが始まる時刻6時ちょうどでした。（黒岩秩子）



「いのちのバトンタッチ」

を拝聴して

庭山昌明（医師・魚沼市在住）

力まず、わかり易く話される演者から伝わる圧倒的な迫力が伝わり、熱気に満ち溢れた講演でした。今、生かさせて頂いている幸せに、あらためて感謝せずにはいられない吹雪の一夜でした。

「光」「ありがとう」「諸行無常」「生死一如」といった多くのキーワードを基調に、生と死が当り前のようにつながっているというタイトルの中で、一人の青年との出遇いを通じて15年の歳月の後に、原作「納棺夫日記」がアカデミー賞受賞作品となる経過を中心に感想文とさせて頂きます。

三重県にあるヤマギシ会に住んでいる私の弟夫婦が、青木新門さんの熱烈なファン・佐川清和さんと一緒に車で三重から来る途中、富山で新門さんをお乗せしてきたのですが、途中猛吹雪で、やっと

ヒンズー教の聖地中の聖地インドのベナレス。多くのヒンズー教

気に入ってるんですけど。  
第2号は半ピラ（A4）です  
ね。半ピラにしてまで出し  
たかった記事ってなんです  
か。

森山…設計者を決めるために投  
票したっていう記事。

関…すぐにみなさんに言う必要  
があったんだろう。



## 入居申込者も参加して上棟式

森山…報告しなければならな  
かったんだね、どうやって決  
めたかを。

10年の11月に投票して設  
計者を決め、11年の11月に  
はでき上がってたんだから、

すごいことなのよ。

鈴木…やっぱり凛々は、関さん  
が居ないと、こういう形には  
ならなかったかもね。

記録としても、なかなか書

類とか分厚いファイルだと、  
紐解くにも面倒くさい。

森山…だから凛々を見れば全て  
のことが出てるんだよ。

関…見出しが全て歴史になっ  
てるんだよな。

森山…そうそう、だから100  
号ってのはすごいことなん  
ですよ。

そして11年の4月に地元  
説明会やってるんだね。

井口…そのため第6号は配布用  
にきれいな紙で？

森山…これだけ印刷屋さんの印  
刷になってるのよ。この時多  
分、天王町全部とかに配った  
んだろうね。

関…地元との対応ってのは、や  
っぱり県のほうからも言わ  
れるからなあ。説明会はして  
るか、同意はとってあるか。

## 鈴木要吉さんのこと

森山…(建前に寄せた、鈴木要吉  
さん直筆の歌を貼った記事

徒たちは、この地で茶毘に付され、  
聖なる河ガンジスに遺灰を流され  
ることを願っているという。

平成5年、青木さんが「納棺夫  
日記」を上梓されて間もなく、本  
木雅弘さんとの交流が始まり、弱  
冠21歳の俳優のインド旅行記に  
「納棺夫日記」の一文を引用させ  
て欲しいとの申し出を快諾。後日



## 阿弥陀様の光を受けての語り

送られて来た『天空静座』と題さ  
れた、ちよつと変わった写真集に  
は、原作者が最も大切にされてい  
る一文、腐乱し蛆が群がる老人の  
遺体を納棺した時、殺されまいと  
動き逃げ回る蛆も命なのだど気付  
き、「蛆達が光って見えた」という

文が引用されていた事に驚き、若  
いの素晴しい感性を持った俳優  
だと思った。それが映画化へと繋  
がり、アカデミー賞受賞へと話題  
が進んだ。

しかし、原作と映画のシナリオ  
が余りにも違っていたので、映画  
化に際しては「納棺夫日記」とい  
う題を使わない事、「原作・青木新  
門」も外して欲しいという条件を  
つけたという。映画は映画でよい  
旨を伝えた。映画のタイトルは  
「おくりびと」となっており、原作  
者の名前もなかったとのこと。

青木さんは原作で、人は死んだ  
らどうなるのか、仏教という往生  
とはどういうことなのか、その事  
を知った時、人は初めて安心して  
生きていけると言う。死を恐れ、  
死に対し嫌悪感を抱いていては死  
者に優しく接することなど出来な  
いということを書いたのに、シナ  
リオでは親子の情愛で終わってい  
た。生と死を観念的に描いている  
としか思えなかったという。

青木さんが書きたかったのは、  
「いのちのバトンタッチ」であつ  
た。そのバトンタッチとは、多く  
の体験から生と死が交差する生死

を見て) いい字を書いたんだ  
よね鈴木要吉さん。

鈴木…これは亡くなった時に弔  
辞で紹介された歌ですね。

関…もうちつとでつかくしとけ  
ばよかつたなあ。

鈴木…この桐鈴会にとつてはも  
のすごい人ですよ。



「八海の勇様の如く凛々と 鈴懸の家今柱たつ」

森山…そう、この人がいなければ、  
何も始まらない。

障がい者の施設を作りた  
いと思つていたのが、ケアハ  
ウスになつたのに文句も言  
わないのよね、じーつとね。

鈴木…要吉さんは「とんとん」  
を見ることなく亡くなりま  
した？

森山…ううん、「とんとん」を見  
たでしょ。見たからよかつた  
など。



上棟式での  
鈴木要吉さん

### 終のすみかを目指して

鈴木…第10号から現在の形(A  
4版)ですが、これになつて  
からの「桐鈴凛々」のタイト  
ルはどなたの字なんですか。

森山…これは、滝沢エミカさん  
(元桐鈴会理事長)に頼んで  
書いてもらった。それまで活  
字だつたんですけど。

関…滝沢さんが書いた方の字が  
いいよな、味わいがある。

森山…美賀さんは凛々のために  
校正の通信教育をはじめた  
んだよね。

井口…凛々のためじゃないんで  
すよ。校正がやりたくて通信  
教育やつた。いつだったか  
全然憶えてないですね。

鈴木…たまたまこのお話と合っ  
たつてことなんだね。

今の形になつたときに森  
山さんが「鈴懸が本当の家  
に」という題で書かれていま

一如の現場にしかないという確信  
からであった。しかし、プロデュ  
ーサーなる男性には、青木さんの  
思いは通じなかつた、という。

原作では、6割以上が宗教の話  
であり、納棺の現場で死者たちに  
導かれるようにして出遇つた仏教  
の真理が綴られているが、眼に見  
えない世界を映像化して眼に見え  
るようにするには、多かれ少なか  
れ無理があると思われたようだ。

青木さんが仏教に出遇つたのは、  
宗教に関心があつて学んだからで  
はなく、毎日死者に接しているう  
ちに、死者たちから死の実相を教  
わり、必然的に宗教へと導かれる  
ことになつたと語られた。

映画完成試写会後に、シナリオ  
段階では想像も出来なかつた俳優  
の演技力に脱帽されたという。15  
年の歳月を経て幾多の困難にも諦  
めることなく、アカデミー賞受賞  
作品として世に送り出してくれた  
本木雅弘さんに拍手喝采を送られ  
た。

青木さんの人柄の大きさ深さに  
感動し、同年代(昭和11年生まれ)  
で戦前・戦中・戦後を経験した私  
ではあります、原体験の違い以  
上に、一人の医療者としての残さ

れた日々をどう送るべきかの道し  
るべを頂き、感謝あるのみです。  
ありがとうございます。合掌。  
平成27年2月

「それからの納棺夫日記」(青  
木新門著、法蔵院刊)を青木新  
門さんから11冊「ほほえみ観音  
に」と贈呈されました。1冊1  
500円でお分けします。



「元氣になつた入居者たち」  
〜けれど、ある矛盾が〜  
おひさま世話人  
小野寺栄子

ケアホームおひさまが開設して  
早1年と3カ月が過ぎ、入居者の  
生活も落ち着いてきています。そ  
れぞれの障がいを受け入れ、お互  
い我慢したり譲り合つたり、時に  
は我慢しきれなくなつたり、爆  
発・暴走してしまうこともありま  
す。精神、知的、身体または、そ  
の複合障がいを抱える人達が、男  
女混合の生活を送る事はかなり大  
変なことなのだと思うのですが、  
皆さん頑張っています。職員も、  
入居者それぞれの不満や言い分に

す。この頃からもう「終のすみか」は謳われてました？はじめから終のすみかを？

森山…最初から、なるべくずうっといられるような施設にしたいとは言ってたよね。

関…目指したい、と。目指そうって話は、はじめからしてたよなあ。

鈴木…18年になると、今の凛々と同じですね。

関…内容もレイアウトもだんだん垢抜けてくるよな。

設立の頃から比べて、職員とかスタッフはどれくらい増えたんだらう。

森山…最初7人だったの。今69人とか言わなかった？70人ぐらいになると、顔なんかわからないもんねえ。

関…そうなる、ますます、凛々の質が大事になってくるよ、役割が。

## 心に残る記事



関…俺は凛々の中で、いちばん印象的な文が、全部のなかでひとつある。皆さん方はそういうの持つてる？

森山…これがとくについていうの

はちよつと。

井口…私もこれといって思い出せない。あの、入居者の随筆で、戦争体験の手記とか、敗

戦直後の満州引揚げの手記の連載は印象的でしたね。

鈴木…意思の疎通や共有したい情報の他にも、入居者の人生の重みを感じるような記事も載せるようになってきたんですね。

関…俺、美賀さんが、息子と意思の疎通がなかなかうまくいかなかったのが、講習会に行ったら、講師が、あれ指だけ（指談）、やったところ…あれにはびっくりして、まだにわかには信じられないんだけど、その後そのことがどうなったかっていうのが知りたいんだよな。あれには俺はびっくりしたなあ。

鈴木…あの記事はとても評判が良くて増刷したんですよ。皆さん、関さんと同じ気持ちで読んでくださったようです。ぜひ続編を美賀さんにお願ひしたいです。（終わり）



その都度耳を傾け、納得できる方向に、本人と話し合いながら解決できるように支援しています。それでないと体調不良に陥ってしまうからです。

入居当時に比べほとんどの人の身体機能が著しく向上し驚き、喜んでいきます。

覚張さんは入居時、歩行器移動でした。それが今では休日にコンビニへ歩いて買い物に行き、どうしても行きたいと、一人で長岡へ映画を見に行ったり、六日町へコンサートに電車で行ったりしました。柳さんは脳出血の後遺症で右麻痺になり車椅子生活でした。なんとか起立可能で短距離なら杖歩行が出来ました。萌気診療所のリハビリに通い始めて今は、おひさまの中では杖歩行の移動のみになりました。本人の努力もさることながら、スタッフの見守りや励まし、健康に留意された食事、毎朝のラジオ体操、そして隣の工房とんとんへ元気に働きに通える事等が身体機能の向上に繋がっているのではと考えられます。

しかし、そこである矛盾を感じています。定期的な障がい支援程度区分の

認定調査で、障がい区分が機能向上により下がるのは分かるのですが、その為に施設の収入がかなり減額され、施設運営が厳しくなってしまう事です。



何とかやりくりして少しでも無駄があれば削り、職員の勤務時間を短縮したり、管理者は入居者の生活の質を落とさない為に苦慮しています。健康で楽しく安心して暮らせることを願うばかりです。

「ひまわりの

インフルエンザ騒動」



ひまわり世話人 羽吹和美

2015年の新年が明けた。正月過ぎから関東圏で猛威を振るっていたインフルエンザがひまわりにもやってきた。

最初は丸山さん。朝食前に突然「のどが痛くてだめだ！食べられません！仕事も行けません！」と訴える。検温するも熱はない。管理者に連絡を取り午前中に通院してもらう。その日の夕方から熱が始め、再度家族から受診してもらいインフルエンザとの診断。ひまわりから自宅が近く、ご家族から大事にされている丸山さんは少し体が弱く、時々具合が悪くなり、心もとなくなつて帰宅を望む。今回もご家族にお願いして自宅静養となる。

次に感染したのはひまわり一元気印の戸田さん。丸山さんと職場が同じで、職場では9人もの方が感染されていたそうである。彼はさほど高熱にも

ならず5日間の自室生活は相当大変だったらしく、我慢できなくなつてチョコチョコと2階から降りてきては1階の喫煙室でたばこを吸っていた。聞けば「前の施設にいた時はしょっちゅう風邪をひいていました。ひまわりに来て体を鍛えるようになってから風邪をひかなくなったのに」と。

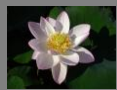
その次の日から発症したのは中沢さん。中沢さんは体調を崩して入院していて、年末前には退院してきてはいたが、なかなか体調が戻らずに仕事も休みがちだったのでこの5日間はしっかり自室で静養できた。一日中ベッドで寝ていて食事が運ばれると起きてしっかり食べていた。

その間、出勤の世話人はマスク着用で朝食と夕食を5日間2人の部屋に運んでは、食事が終わると下げに行つたのです。ところが戸田さんと中沢さんが3日目のころ世話人の自分が感染してしまつたのです。勤務も変わつてもらい、皆さんにはご迷惑をおかけしてしまいました。世話人3人で交代して勤務している中、1人欠けると勤務変更

も上手く行かない日もあり、管理者が朝食づくりに出勤したりという日もありました。

現在主人との2人暮らし、私が寝込んでしまい、5日間の外出禁止で、こんな時おはようへルプに電話してヘルプしてもらえたらいいなあと思ひながら寝ていました。今回ひまわりの初めてのインフルエンザでつくづく朝夕の支援しかないグループホームの大変さを実感した次第です。これからは皆さん元気で過ごせますように、よろしく願いします。

## 訃報その2



工房とんとんを利用してくださつていた牛木正和さんが、2月15日に亡くなつてしまいました。次号で、その弔辞を皆さんにお送りするつもりです。私をこの道に導いてくれた大切な方だったので、とても残念なことでした。

(黒岩秩子)

## 編集後記

平成26年度も残り少なくなつてきました。多くの学校や職場ではこの3月を準備期間として、4月から新しい環境にチャレンジするものです。

ところで、皆さんにとって今年度はどんな年でしたか？良い出会いはありましたか？

思い返せば嬉しかったこと、大変だったこと、印象に残っていることが頭の中を駆け巡ります。来年度はどんな年になるか想像もつきませんが、考え過ぎずにゆつくりと周りの人と手を繋いで歩いていけたらいいなあと思います。

桐鈴凛々も今回で1000号を迎えました。これも皆様の応援をいただいているおかげです。ありがとうございます。

来年度からはまた新たな気持ちに出会えるように、名残惜しい気持ちを大切にしまつていきましよう！

ファイトオー！一発っ！  
そして101号からもよろしくお願い致します。

(富永なつみ)